



ガバメントクラウドファンディング受付開始!

「郡山公会堂電燈復元事業」(市制施行 100 周年プロジェクト)

～光の喪失から郡山市のシンボルに新たな 100 年の明かりを灯す～



ターゲット 4.7

2024 年 12 月 20 日

郡山市教育委員会

中央公民館

館長 片平 力也

TEL : 934-1212

SDGs ターゲット 4.7 「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を修得できるようにする」

市制施行を記念して 1924 (大正 13) 年に建てられた郡山公会堂は、建築当時、正面玄関左右両側に電燈が設置されておりましたが、先の大戦時の金属回収令により供出されたと推定され、撤去されたまま現在に至っております。

このたび、市民の方から古写真の提供があり、当該電燈の存在が判明しましたことから、市制施行 100 周年記念プロジェクトとして当時の姿を復元し、その実現に向けて、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングの受付を開始します。

郡山市の歴史を体現するランドマークに失われた明かりを灯すため、本事業への御支援をお願いします。

1 募集期間

令和 6 年 12 月 20 日 (金) ～令和 7 年 3 月 19 日 (水)

2 目標金額

1,000,000 円

3 寄附金の用途

電燈の製作費

4 返礼品

本市の特産品を御用意しております。

(詳細は裏面チラシ参照)



5 受付先

ふるさとチョイスの GCF のサイトで受け付けしています。

以下の URL 又は QR コードからご覧ください。

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/3726>



2024(令和6)年 郡山市は市制施行 100 周年!!

ひらけ 未来へ こおりやま



目標金額
100万円

郡山公会堂の失われた電燈復元へ!!

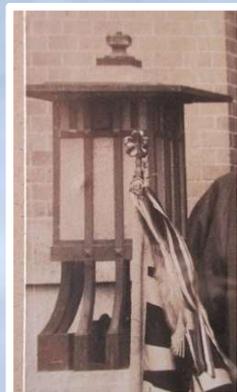
～これまで不明だった電燈の写真が見つかる!～

募集期間
2025年
3月19日
(水)まで

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングに挑戦中!

《市制施行100周年プロジェクト『郡山公会堂電燈復元』》

郡山公会堂は、市制施行を記念して1924(大正13)年に建てられました。建築当時、正面玄関左右両側に電燈が設置されておりましたが、先の大戦時の金属回収令により喪失したことから、市制施行100周年記念プロジェクトとしてこれらを復元し、建設当時の姿を再現します。失われた照明に明かりを灯すことで、これからも郡山市の歴史を体現するランドマークとして、また、シビックプライドの醸成や観光資源としての魅力向上につなげていきます。



復元する電燈



ご寄附について
お寄せいただきました
ご寄附は、郡山公会堂
電燈復元事業の一部に
使わせていただきます!

選べるお礼の品

郡山市の特選品が選べます!

- ※このプロジェクトへの寄附はふるさと納税対象です。
- ※自己負担2,000円で地域プロジェクトを応援できます。
- ※郡山市民の方は、お礼の品は対象外となり、税額控除が受けられません。



寄附金額30,000円



寄附金額13,000円



寄附金額12,000円



寄附金額37,000円

お申込みはインターネットが便利! (ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディングへ)

URL

<http://www.furusato-tax.jp/gcf/3726>

【お問合せ先】 郡山市立中央公民館 〒963-8876 福島県郡山市麓山一丁目8-4 電話024-934-1212



《国登録有形文化財（建造物）「郡山市郡山公会堂」》

郡山公会堂の建築工事は、1922（大正11）年10月から翌12年9月1日の関東大震災の影響による工事ストップ期間を含み大正13年9月までの期間でした。当時建築にあたった町政担当者は「伸び行く郡山」を象徴しようと、近代的建築様式の一大建造物を設計しました。しかも、1年ではできないので、3か年継続事業として26万円余の予算を計上しましたが、財政上16万3千円にとどまりました。大規模な工事であったことから、県はもとより町内の融資からの寄付金も募るなど、市民の大きな期待が寄せられていたようです。しかし、工事は、予定どおりいかず、9月1日の市制施行日には間に合わず、2か月ほど遅れて完成し、11月30日に祝賀の記念式を行ったと言われています。

ルネサンス様式で計画された本館は、2階建て一部4階総建坪19坪7勺、鉄骨トラス小屋組で屋根はストレート葺でした。連続半円アーチの柱廊と総台受、上げ下げ連窓などを丁寧にデザインした躯体の隅に縦長ガラス面で垂直性を強調した塔屋を設けています。建築当初は安積開拓の精神を映す最も近代的なものでした。設計者は、矢橋賢吉と言われていますが、矢橋本人は当時大蔵省建設課長兼臨時国会議事堂建設局長であり、議事堂建設に多忙を極めていたため、実際は彼の部下である萩原貞夫技師の手によるものであるとも言われています。また、設計にあたっては、矢橋が萩原にオランダ・バークの平和宮の図面を示して指示を与えたとも伝えられています（大正建築物で代表的な大阪の中之島公会堂を模したとも言われています）。

郡山公会堂は、全体のバランスや細かな意匠、色彩などの所見の多い大正時代の洋風建築として貴重で、「造形の規範となっているもの」との登録基準を満たしていることから2002（平成14）年に国登録有形文化財に登録されています。かつて唯一の集会場であった頃は、プロレスの興行や労働組合の集会、「『10万人のコーラス』運動」の会場として利用され、現在は、コンサートや集会、展覧会等様々な催し物が開かれており、郡山市の歴史の中で記念すべき建築物と位置付けられています。

《失われた灯火》

公会堂正面玄関へのアプローチ階段の両脇の石（袖石）の上部には、何らかの装置が設置されていた痕跡があります。校外学習で訪れる子どもたちや公会堂を利用される方も、何があったのか普段は何気なく通り過ぎることが多いほど見逃しがちな痕跡ですが、よく見ると何かを止めていたアンカーボルトの切断跡が出ているのです。

郡山市図書館デジタルアーカイブのサイトで公会堂の古い画像や仕様書を確認すると、電燈が置かれていたことが分かります。歴史資料館によれば、先の大戦中の1941（昭和16）年の金属回収令が公布され、これにより撤去、供出されたのではないかとのことです。以降、復元されずに現在に至っており、どのようなデザインのものだったかまではわからないままでした。

なんとか実際の形状が分からないものかと、公会堂周辺地区の神社仏閣等への聞き取りや同時期に建築された市内の洋風建築物の確認、書籍等の調査をしておりましたが、中々画像資料の発見までには至りませんでした。

このような中、郡山市歴史情報博物館準備室において、市民の方からの歴史資料の寄贈の申出があり、学芸員が資料確認に伺ったところ、偶然、公会堂を背景にした古写真を発見、それは青年等が並び、脇に公会堂の電燈が映る壮丁徴兵記念※の写真でした。

この写真の発見により、電燈のおおよその大きさやデザインなどが判明したことから、市制施行100周年の節目に復元が可能であると判断しました。

※壮丁：①成年に達した男②労役や軍役に服せられる者



【竣工当時の写真】



【10万人のコーラス】



【電燈痕】



【設計図】



【壮丁徴兵記念写真】

選べるお礼の品の一例 — 郡山市の特選品が選べます！

<p>寄附金額17,000円</p>	<p>寄附金額16,000円</p>	<p>寄附金額12,000円</p>	<p>寄附金額10,000円</p>	<p>寄附金額12,000円</p>	<p>寄附金額110,000円</p>
<p>寄附金額16,000円</p>	<p>寄附金額15,000円</p>	<p>寄附金額11,000円</p>	<p>寄附金額7,000円</p>	<p>寄附金額23,000円</p>	<p>寄附金額9,000円</p>